

その後、どうして釜ヶ崎に移されたかについては次の章に譲ることにしよう。ただいえることは、釜ヶ崎というところは資本主義社会が生んだのではなく、封建社会においてすでにその芽生えがあったとらえることができるし、資本主義がそれを肥大させる役割を演じたと見ることができるとはなからうか。同じことが東京山谷の場合においてもいえるし、それがわが国スラムの特質といえることができると考えている。

三 日露戦争の前の年 いわゆる釜ヶ崎が誕生した

昭和初期、大阪市役所が発行した「大阪市不良住宅地区沿革」と題した資料によると、釜ヶ崎について次のように記している。

現在の釜ヶ崎密集地域も明治三十五年頃までは、僅かに紀州街道に沿う旅人相手の八軒長屋が存在していたに過ぎない。

その後、東区の野田某氏が始めて、労働者向きの、低廉なる住宅を建設して、労働者を収容したるが、尚當時に於て依然として、百軒足らずの一寒村に過ぎなかつた。

以後、大阪市の発展に伴ひて、下寺町広田町方面に巢食つてゐた細民は次第に追ひ出されて南下し、安住の地を求め、期せずして、集団したるが、現在の釜ヶ崎にして、そこに純長

3 日露戦争の前の年いわゆる釜ヶ崎が誕生した

第5回内国勸業博覧会入場者数

昼間	3,805,000人
夜間	545,000人
外人	5,000人

第一会場となる天王寺公園、新世界は面積にして約一〇万坪であったというが、当時はまだ原野同様の荒地であり、用地は問題にならないほど、安価であったといわれている。大阪市ではこの博覧会計画を成功させるため、まず一〇万坪の用地を無償で提供するとともに、日本橋から会場までの御幸道路を整理することにしたのである。次いで、すでにスラム化していた長町四丁の一部と、俗称、新台湾と呼んでいた細民街を、美観を損なうということから取り払い、住民を釜ヶ崎の刑場および墓地跡に移したのである。長町四丁や新台湾の住民を釜ヶ崎に移したのは、そこが釜ヶ崎の目と鼻の先にあつたということもあるが、刑場跡とか、墓地跡といったところは、地価が低廉だったということのほかに取りたてて周囲の住民が反対しなかつたということもある。

商都大阪から全く見捨てられていた西成で、明治末期こうしていわゆる釜ヶ崎の誕生を見るのである。

さて、釜ヶ崎に長町四丁や新台湾の住民が移住してきて、今宮村の人口は急増したというものの、それはまだまだだわびしいところであつて、スラム街というにはほど遠い田舎町であつた。だが、『西成区史』に記されているところによると、この内国勸業博覧会が終わって一か月後の九月一日から、釜ヶ崎に近い花園町と大阪港を結ぶ約五キロの間に、二階付きの豪

町細民部落を形成するに到り、下級労働者、無頼の徒、無職者は激増し、街道筋に存在する木賃宿は各地より集まる各種の行人遊芸人等の巢窟となり、付近一帯の住民の生活に甚だしい悪影響を与えつつある。

児童の大半は就学せず、すでに就学せるものも、三、四年の課程を終へれば登校せず、金を賭して遊ぶ子供を所所に見受ける。

下水の施設なく不潔なること言語に絶するものがある。表側に於ては左程にも思はれぬとも、裏側においては、甚しいものがある。上水の施設もないところ多く、井戸水を使用してゐる。……

この資料によると、当時の大阪市としては福祉に今日ほどの理解がなかつたためか、一寒村に期せずしてできた釜ヶ崎に対して明らかに傍観者の態度を取っているし、行政責任を取ろうという意志が見られないことがわかる。行政当局のこのような消極的な姿勢は、釜ヶ崎で第一回の騒ぎが起きた昭和三十六年八月までの約六〇年間、続いていたといつても過言でない。

事実、日露戦争がはじまる明治三十六年（一九〇三年）三月一日から七月三十一日までの四か月間、行政当局は大阪ではじめての産業博ともいえる第五回内国勸業博覧会の第一会場を、釜ヶ崎に隣接する現在、天王寺公園、新世界となつているところで開催することに決定したのである。

華な市電が開通している。また、日露戦争があった明治三十七—十八年（一九〇四—五年）、博覧会会場跡に軍馬の置場、ロシア人捕虜収容所、陸軍病院などができ、軍人や軍馬が築港から出入りするため、釜ヶ崎周辺はかなりあわたしだったと思われる。こんなさわがしいご時勢のなかにあった明治三十七年（一九〇四年）三月七日、今宮戎神社が火災で焼失したのである。

明治四十年（一九〇七年）十二月二十日、それより一〇年ほど前から今宮村を北から南にかけて走っていた南海電鉄が、今宮戎と萩之茶屋の二つの駅を開設している。この両駅の新設はとりもなおさず、釜ヶ崎とその周辺に次第に人が住みつき、往来する人の数もふえてきたことを意味している。続いて、翌明治四十一年（一九〇八年）八月一日、市電南北線が難波と今宮間で開通した。このため、長町四丁と呼んでいた日本橋界隈の細民街が再び整理され、一部の住民は大阪市外へ、他の一部の住民は釜ヶ崎へ移されている。さらに、明治四十四年（一九一一年）十二月一日、幸徳秋水らが起こした大逆事件で世情不安が続いていた頃、後に南海電鉄阪堺線となる阪堺電気軌道株式会社が創業し、堺筋の恵美須町を起点として釜ヶ崎に近い霞町、今池、飛田を経て、堺、浜寺に至る新路線を開通させた。

一方、日露戦争の勝利に酔った日本の資本主義は津守の海浜で造船、鉄工を中心とする工場群を建設し、南大阪一帯の開発プロジェクトは急速に進められていく。また、釜ヶ崎では字東道（現

在の太子一丁目）に大阪電光社マッチ工場が完成し、字釜ヶ崎（現在の萩之茶屋一丁目）に大阪たばこ専売局今宮分工場が竣工して、釜ヶ崎の安い労働力を利用しはじめたのである。

いまでも多くの問題を抱えている簡易宿は、当時これを「木賃宿」と呼び、大阪府条例・宿屋営業取締規則によって規制されていた。そのため、釜ヶ崎では明治三十三年から明治四十三年ごろまでは細原吉継という人が経営する「梅之屋」一軒だけだったという説がある。しかし、本章の冒頭で紹介した大阪市役所の「大阪市不良住宅地区沿革」によると、大阪市東区の野田某氏が経営する木賃宿だけだったと記されているので、この点はあまり定かでない。だが、このころから人夫や大道芸人、順礼や生活困窮者などが宿泊するドヤがあったことはたしかである。

明治末期、釜ヶ崎にはドヤが少なかつたが、長屋を中心に次第にスラム化がすすみ、福祉対策の必要性がでてきていた。明治四十五年（一九一二年）六月、西成では最初の社会福祉施設である大阪自彊館が、旧住吉街道に沿って西成警察署より三、四〇〇メートルも南に下った地点において開設されている。この施設は当初、生活困窮者などの更生施設として誕生したのであるが、現在でもこの施設は存続しており、収容している人数は約一〇〇〇人におよんでいる。

この年の七月三日、新世界にフランスのエッフェル塔をまねた通天閣（現在の通天閣は昭和三十一年十月二十八日に再建された）が建ち、ルナーパークが開業した。この通天閣には後「ライ

オン歯磨」の大きなネオンサインが取り付けられたのであるが、この通天閣からスカイウェイでラジューム温泉や文楽の人形芝居のあるルナーパークに行けるのである。そして、そこには体育場、休息所、音楽堂、ウォーターシュートがあり、「新世界」はその名にふさわしいモダンな一大歓楽街となった。このラジューム温泉と文楽の人形芝居小屋跡が、太平洋戦争後、一時期を風靡したストリップ劇場「温劇」になるのである。東京上野の浅草とどこも似た新世界は、今日でこそ雑踏と喧騒に明けくれているが、かつては大阪一のレジャーランドであったといわれている。

さて、明治時代において釜ヶ崎に起きた特筆すべき出来事は、なんといっても隣接地の天王寺村において第五回内国勸業博覧会が開催されたことであろう。この会場づくりは長町四丁の住民が人夫として動員されているが、それはまた日本万国博に釜ヶ崎の日雇労働者が用いられたのと同じことと類似している。そして、内国勸業博覧会を契機にいわゆる釜ヶ崎が誕生したし、人類の進歩と調和をうたった万国博でマンモスドヤが林立し、そこが著しく肥大していったことである。すなわち、資本主義の繁栄、博覧会の開催、釜ヶ崎の膨張という一つのパターンを、ここに見いだすことができるのである。

大正時代に入って行政当局は釜ヶ崎とその周辺に対して、やっと社会福祉の手を差しのべはじめた。大正二年（一九一三年）四月、財団法人・大阪職業紹介所を浪速区恵美須町二に開設し、その二か月後の六月に通天閣からそれほど遠くない同じ恵美須町二に、恩賜財団・済生会今宮診療所を創設している。また、市設今宮質館を大阪職業紹介所内に設置し、今宮産院も橋通りに開院している。こうして見ていくと大阪職業紹介所が現在の西成労働福祉センター、済生会今宮診療所が大阪社会医療センターの役割を果たしていたということが出来る。そして、西成労働福祉センターは職業紹介、大阪社会医療センターは医療という分野を担当し、しかも同じマンモスビルの愛隣総合センターに同居していることも、どことなく似かよった点がある。しかし、大正時代の労働福祉対策は行政当局がやっと重い腰を上げたという程度にすぎず、釜ヶ崎とその周辺にスラム街があることは、ある意味で必要悪ぐらいに考えていたのではないかと思われる。

大正四年（一九一五年）一月、天王寺公園の一隅で天王寺動物園が開園した。新世界にはまた一つ大きな魅力がプラスされたのである。続いて大正五年四月十五日、釜ヶ崎の中心から歩いて五分のところである天王寺村字天王寺の中の小字北、中、南——通称「堺口」といわれる畑地約二万六〇〇坪が、「飛田遊廓」として用いたとして、大阪府に対して営業許可の申請が出されている。申請したのは火災で焼け出された元難波新地の廓の親方たち。そして、許可が出たので

その年の十一月、阪南土地株式会社を設立して廓づくりに着工している。こうして、「籠の鳥」という流行歌がはやる三、四年前の大正七年（一九一八年）十二月二十九日、関係者を招いて廓式を行なったのである。

廓名を「飛田」としたのは、この地帯をかつて飛田と呼んでいたからにほかならない。さらに、二万六〇〇坪の面積をもつ廓の周囲には、高さ四メートルもあろうかと思われるコンクリートの壁を築いた。そのなかに妓楼^{きろう}一七五戸、抱娼妓二〇五六人、芸妓二五人を置いて、開廓したのであるが、それはまた大変なにぎわいだっただけで、今日でも、当時、抱娼妓の逃亡を防ぐために築いた高いコンクリートの壁の一部が残っているが、飛田遊廓をまるで城壁のようにして囲むコンクリートの壁こそ、釜ヶ崎の「嘆きの壁」と呼ぶべきではなからうか。さらに、このコンクリートの高い旧飛田遊廓も、今日あいりん地区に指定されているが、夜になるといまだ赤いネオンが点滅しており、何らかの福祉対策が期待されている地域でもある。

さて一方、そのころの世界情勢は大きな変化を遂げ、大正三年（一九一四年）五月一日、お隣の中国大陸では中華民国が誕生し、さらにその年の七月二十八日、領土欲に満ちあふれた世界の大国が戦争を開始した。第一次世界大戦がそれである。大正四年六月二十一日、戦争景気が背景に南海電鉄株式会社と阪堺電気軌道株式会社が合併し、南大阪一帯の交通網の一層の充実が実

現されていくことになる。大正五年、今宮村の人口が五〇〇〇人余りに膨張したので、大阪水道局の協力を得て上水道工事に着工している。

翌大正六年九月一日、人口が六〇〇〇人余りに達したので今宮村では町制を施行し、「大阪府西成郡今宮町」と呼称することになる。そのとき、町議会で町内の字名を新しく定めたのであるが、特に「釜ヶ崎」というのはあまりよい字名ではないという結論に達したので、まず「水崎町」とし、後に「東入船町」と「西入船町」という町名に変更したのである。人々から長らく親しまれてきた「釜ヶ崎」という地名は、実はこうして地図上から抹殺されることになるのである。しかし、お隣りの中華民国は成立して月が浅く、まだ弱体であったため、わが国は軍隊を中国東北部に駐屯させ、満州、蒙古の独立を画策したり、軍閥・張作霖^{ちやうせきん}の暗殺をはかるなど、積極的に大陸干渉をはかりはじめた。他方、国内では釜ヶ崎という地の植民地化をさらに押しすすめ、毎年一〇〇〇人の割で今宮町の人口を膨張させていったのである。こうした時代の流れのなかで大正六年（一九一七年）十一月七日、ロシアで十月革命が起こり、ソビエト政権の成立を見ることになった。

さて、国内の新植民地となった釜ヶ崎の状態を、郡昇作氏が収集した資料によって見ると、今宮村が今宮町に昇格した大正六年、関西線（現在の国鉄環状線）以南の木賃宿数は四四軒で、そ

紙箱貼り一二銭、ピンはさみ一五銭、硝子^{ガラス}玉切り一五銭、硝子細工一〇銭、金鉛二〇銭、棕櫚^{しゅら}縄^{なは}づくり一二銭、下駄鼻緒仕上げ一五銭、鳥の足付け一六銭、毛付^け笛^{ふえ}づくり一〇銭、提灯^{ちょうちん}づくり二五銭であったとしている。一応、ここで「一〇銭」という金の価値を「一〇〇〇円」に換算し計算すると、現在の釜ヶ崎の労働者の日収とそれほど差はない。しかし、それにしては当時の宿料はこの人たちにとって、ずいぶんと高負担であったことがわかる。

しかも、これらの職業のほとんどが雨天ではできない仕事である。今日でもそうであるが、「土方殺すに刃物はいらぬ、雨の三日も降ればよい」といわれているように、釜ヶ崎に住む人たちの収入は天候に大いに左右されていたのである。そして、日収四〇銭台の仕事をしている人でも、月平均すると低く、とても貯金などできる状態ではなかった。このころを境に釜ヶ崎では大阪土着の人が少なくなり、代わって農山漁村からの逃亡者、高齢のため廃棄された労働者が定着しはじめている。

大正七年（一九一八年）、第一次世界大戦がドイツの敗北で終わりに近づいていたころ、わが国で米の値段が一升二五銭から四〇銭台へ急に暴騰しはじめたのである。大阪堂島の米相場はすでに取り引きを中止し値上がりを防いでいたのであるが、八月三日になって富山県でついに米騒動が発生した。そのニュースが大阪に伝わりと六日後の八月九日には、今宮町民らが天王寺公園

こには約二六〇〇人が宿泊していて、うち新顔が一五〇名いたという。そして、三か月以上の滞留者が大部分であったし、なかには五年、一〇年という長期滞留者もいたとしている。なかでも今宮スラムといわれていた釜ヶ崎には、木賃宿一六軒、針屋一軒、床屋一軒、風呂屋一軒、質屋一軒、飲食店八〇軒が密集していて、完全にスラムとしての集落を形成している。もっとものことながら、ここには売春婦が四六の置屋に六〇名ぐらいいて、それらはほとんどが強引な引張り淫売であったらしい。なお、当時、警察が検挙した一〇八名の私娼のうち五〇名が女工上がりで、他は仲居^{なかい}や酌婦上がりであったという。おそらく泉州あたりの織屋で働いていた女子工員が、貧困の結果、何かのわずかで転落し、抜け足ならぬ状態になって働いていたのであろう。

木賃宿の滞留者で注意をひくのは、身体障害者、生活困窮者であった。あるいは文字が書けないために入籍せずにいる夫婦、離婚者も多く、私生児や連れ子の数もかなり多かったとしている。そして、どぶろくが一合四銭、旅籠代は一晚六銭から一〇銭、一間貸し切りになると一五銭から二〇銭というのが常識だった。

さらに、その資料によると、木賃宿に止宿している人たちの日収は、屑買い四〇銭、羅字^ろ替^かえ四〇銭、塵埃運搬四五銭、鋸目立て四五銭、日雇四五銭、菓子売り四五銭、マッサージ二〇銭、磨砂^ま売^り一五銭、古木拾い二〇銭、玩具製造二〇銭、下駄表編み一二銭、眼鏡^{めがね}サック製造八銭、

3 日露戦争の前の年いゆる釜ヶ崎が誕生した

今宮町人口の推移

明治30年(1897)	500人
大正2年(1913)	3,000人
大正12年(1923)	75,000人

船町)が含まれていなかった。それにしても明治三十年、後に大阪環状線となる関西線以北の今宮村が大阪市に編入されたとき、この村に残された戸数は一三四戸、人口にしてわずか五〇〇人足らずであったが、大正二年には六二五戸、約三〇〇〇人余りとなり、その一〇年後の大正十二年にはなんと七万五〇〇〇人に達しているのである。

関東大震災があった大正十二年(一九二三年)、キリスト教の一派であ

で米価調節市民大会を開き、集会後約一〇〇名が天王寺、今宮、日本橋付近の米屋を襲っている。これが大阪ではじめて起きた米騒動である。しかし、八月十五日には新聞に騒動の記事を掲載することが禁じられたこともあって、八月十七日には平静に戻っている。以後、昭和三十六年八月一日までの約半世紀の間、釜ヶ崎のスラム化は進展したものの、騒動らしい騒動は何一つ起こらなかったのである。

当時、釜ヶ崎に入ってくる人は農山村、あるいは漁村で食えなくなったとか、事業に失敗したとか、不治の病にかかって身内からも見離されたとかで、大阪にきたものの、やがて持ち金がなくなつて、という例が多かつたらしい。また、大阪という都市の魅力に引かれてきたものの、適当な住居がなくて数日後、釜ヶ崎の宿住まいになった人もいる。あるいは、梅田界隈の高級旅館に投宿して職探しに奔走していたが、やがて持ち金の底がつき、「安宿なら釜ヶ崎にある」と教えられ、釜ヶ崎にきて住みついたという例もまれではなかった。こういった不幸な人を相手とする木賃宿が、釜ヶ崎周辺には大正五年に四四軒であったが、わずか一年後の大正六年には五〇軒にふえている。

第一次世界大戦が終わつた年の翌大正八年(一九一九年)、大阪市は関西線に近い釜ヶ崎とは目と鼻の先の浪速区宮津町に市立今宮共同宿泊所と市立今宮簡易食堂を開設した。これは当時かなりスラム化していた浪速区の一部とその周辺に住む人たちを対象としたものであったが、それは焼け石に水といった小手先の福祉プロジェクトであったことはいままでもない。大正九年(一九二〇年)三月十五日、第一次世界大戦後の大恐慌がはじまると、企業の倒産が続出し、その影響を受けて釜ヶ崎の人口は急に膨張していくことになる。

大正十三年(一九二四年)、今宮町が町全域にわたって人口調査を行なつたところ、人口はなんと七万五四〇〇人に達しており、今宮スラムといわれた釜ヶ崎だけでも、なんと七〇〇〇人が居住していた。その今宮スラムといわれていた釜ヶ崎とは、現在あいりん地区に指定されている山王町一―三丁目(旧飛田遊廓も含む)、太子一―二丁目(旧東田町)、天下茶屋北二丁目(旧曳

るメソジスト派の樽井武雄牧師は、通称ションベン横丁といわれるところへきて、米屋をしながら伝道していた。この牧師が後に郡昇作氏に対して次のように懐旧して話している。

「私はいまのところ西成区海道町二番地（当時は西成郡今宮町）へ大正十二年の十一月にきて、はじめて寝た翌日、表の戸を開けると戸口でモルヒネ患者が死んでいました。郡さん（当時、今宮保護所長）のいなさるあの辺、東田町七三番地、現在の愛隣会館と託児所のあるところには汚い藪こもの家が部落をなして、拾い屋が非常に多かったのであります。

当時、世の中は経済的にも、思想的にも、動揺の激しかった時で、失業者が何十万、何百万といわれたときであります。

そのとき独身者のルンペンと細民を区別して研究しました。そして性格の破産者であるルンペンは仲々に救えないという結論に達しました。しかし、細民はちょっとしたことでのして行けるということを知りました。

保護所はとも変わっています。以前は大変汚く、食堂の設備はなく、夜具はなく、床もなく、じめじめしていました。ちょうど船の三等室の汚いところを思わせるようでもありました。一番悪いことは博打ばち打ちが多かったことであります。年中やっておりました。

この通り筋、釜ヶ崎銀座（旧住吉街道）では正月にはハッターリをやっておって通れなかったの

であります。モルヒネ患者は何度となく物を盗みました。品物を盗んで注射するのであります。浜寺の方に収容所、浜寺病院をつくり患者たちを運び去ったので、その時の気持ちの悪いのは跡方も無くなり、絶えてしまいました。

お米は自分の家・愛化団（キリスト教伝道所の名称）で売りました。バッチや風呂敷を持ってきて『ちよっと、一升入れてんか』というので、はかって入れると『お金はちよっと待って下さい』というのであります。せっかくはかって入れたお米を取り返すこともできず大分損をしました。……」

樽井牧師の話のなかにある「浜寺病院」は、当時の釜ヶ崎における麻薬患者、行路病者などの収容所であった。また、愛化団と名付けた伝道所をつくり、キリスト教の伝道をしていた樽井牧師は、その後、太平洋戦争で釜ヶ崎が丸焼けになるまで、ションベン横丁でがんばっていた。しかし、戦争中は憲兵や警官に監視されての伝道で、それは大変な苦勞をしていたといわれている。

大正十一年（一九二二年）十二月、難波と和歌山間に開通した南海電車は、大正十三年（一九二四年）九月十日、釜ヶ崎を北から南にかけて走る高架複線工事を完成した。これで南大阪一帯の交通網を一段と充実した。また、大阪市はこの年、市立今宮共同宿泊所があった浪速区宮津町

3 日露戦争の前の年いわゆる釜ヶ崎が誕生した

釜ヶ崎とその周辺の戸口分賦状況

字	男(人)	女(人)	戸
東田	1,275	1,140	547
今池	1,414	1,277	580
東入船	1,582	1,035	356
西入船	1,258	1,005	458
甲岸	193	212	122
海道	781	735	379
東萩	513	512	285
曳船	508	483	264
東今船	241	233	14
西萩	682	628	337
西今船	457	428	229
東四条	1,543	1,361	826
西四条	1,561	1,370	729
花園	950	912	477
西皿池	532	492	227
東皿池	368	341	170

大正13年5月10日調べ 西成区史より

意外と世帯を持っている人が多く、しかも、定着性があつたことがわかる。それは明治初期から中期にかけての長町四丁の状況とよく類似しているが、男性の数が圧倒的に多く、しかも、一日千人単位で流動している今日の釜ヶ崎とは、全く相違するところである。また、この調査結果では今宮町民のうち大阪府に本籍地がある人が二万五〇〇〇人余り、他府県を本籍地としている人が四万五〇〇〇人であったことが判明している。そして、この数字は釜ヶ崎およびその付近の町が、当時から農山漁村の衰退と深いつながりがあつたことを実証しているのである。

大阪市では大阪市第二次市政拡張計画により、周辺のいくつかの町村を吸収合併して後、大阪

人口密度調査表

	面積	人口	密度
大阪市	22.82 平方哩	1,433,862人	62,834
今宮町	1.04 平方哩	75,410人	72,510

大正13年5月10日調べ 西成区史より

に、どん底の家庭を対象とした市立今宮乳児院を開設している。

今宮町はますます過密化し、スラム化する釜ヶ崎と、これ以上、町行政で取りくむことは困難と見たのか、大正十四年（一九二五年）四月一日、大阪市告知第四十六号をもって大阪市内編入されることになる。そして、今宮のほか玉出、粉浜、津守の四か町村も編入され、一括して「大阪市西成区」と呼称されることになった。こうして、大正の終わりををもって「大阪府西成郡今宮町」は、その変化に富んだ一〇年間に幕を下すことになるのである。

ところで、上記の大阪市と今宮町の「人口密度調査表」を見てもわかるように、大阪市への編入時においては古くから商都として発展していた大阪市より、開発の緒に着いてわずか二十余年、町制が敷かれて一〇年余の今宮町の方が、人口密度は高いという現象が出ている。これは都市化が成熟していくなかで、釜ヶ崎はすでに超過密のスラム街となつて

いることを立証している。さらに、『西成区史』に記されている「釜ヶ崎とその周辺の戸口分賦状況」を見ると、比較的、男女数の比率にバランスがとれていることであり、

市の新しい都市計画を発表している。そのプロジェクトによると、旧今宮スラムといわれていた釜ヶ崎は、商業地域とすると定めている。大阪市が定めている商業地域とはすなわち「どや」「めしや」「飲みや」の「三や」がある町とするという意味にとらえてよい。そして、今日の釜ヶ崎はだいたい当時のプランどおりに形成されているといつてよからう。また、天王寺村に属していた飛田遊廓は、この大阪市の市政拡張プロジェクトによって住吉区に編入され、新たに「大阪市住吉区山王町四丁目」となったのである。

さて、ここで明治末期から大正時代にかけて、釜ヶ崎というスラム街が形成されていった主たる要因と副次的な要因について改めて考察し、それがどのような条件のもとで肥大していったかについて見ることにしよう。論ずるまでもなく、基本的には資本主義の成長と繁栄が、釜ヶ崎のスラム化を推しすすめていったのであり、それが主たる要因である。だが、その母体である長町四丁を見てもわかるように、すでに封建社会によってその種はまかれ、「土農工商」という階級からはざされた人でない人が住む町として、大きくはぐくまれていたことは事実である。

また、副次的な第一の要因としては、近くに四天王寺があったことから、少なからぬ影響を受けていることである。すなわち、かつて国際港であった那具の浜の陸地化に伴い、いつの間にか

四天王寺の埋葬地とされ、後、徳川中期になってそこが飛田刑場とされたことである。一般に刑場跡というようなところは忌み嫌われる場所であるが、底辺の人たちにとっては住居費など極度に切り詰めて暮らせる、すこぶる便利なところである。まず、これによって長町住民の移転先が、釜ヶ崎と定められたのである。

副次的な第二の要因は、足利中期において日本橋と堺を結ぶ住吉街道が開通し、それが徳川時代になって江戸と紀州を結ぶ天下の往来、すなわち紀州街道となったことである。このため、長町四丁の住民は人夫、大道芸人、行商、先曳、順礼などとなって、目的地に即刻、赴くことができたし、釜ヶ崎も長町四丁と同様、地の利が抜群によかったことが、スラム化進展の要因として働いている。今日では南海電鉄、国鉄、地下鉄のほか、難波と和歌山を結ぶ国道二六号線、阪神高速道路、尼崎平野線、堺筋などの道路がそれに代わっている。いずれにしても、仮にここに住吉街道がなかったとすると、今日の釜ヶ崎を見なかつたことであろう。

副次的な第三の要因としては、隣接地に大正初期に誕生した大阪では当時いちばんにぎわっていたといわれる新世界、天王寺動物園、天王寺公園のほか、飛田遊廓という歓楽街があり、難波や千日前、心斎橋筋などの繁華街にも近かつたということである。こうした歓楽街や繁華街から排出される残飯や鉄くず紙くずなどは、釜ヶ崎住民の生活の糧となっていた。また、一説による

と大阪のほとんどのくずは、必ず釜ヶ崎を經由して処理されていたといわれている。さらに、行政当局は肥大する釜ヶ崎をなんとかしようとしてその分割を検討したが、飛田遊廓までも移すことはできないとして、廃案になったというまことしやかな逸話さえある。その真偽のほどは別として、単身者の多い釜ヶ崎と飛田遊廓のつながりは深かったと見ざるを得ないのである。

このスラム・釜ヶ崎を成立させた副次的な三つの要因は、また東京・山谷きやの場合にも適用させて考察することができる。山谷の場合は現在のあいりん地区と比べて、人口、面積ともに約二分の一にすぎないが、かつて大阪にあった長町四丁と同様、徳川時代初期に江戸の町づくりの一環として設けられたものである。しかも、それは日光街道と奥州街道の分岐点にあり、お仕置場として名高い小塚原刑場の近く涙橋周辺に誕生したことである。さらに、そこは「吉原通い」を別に「山谷通い」といわれていたほど吉原遊廓に近く、繁華街として知られている浅草聖天町にも隣接していた。このように都心ともそれほど遠くないところに位置していたことも、釜ヶ崎の場合とどこことなく類似している。そして産業革命後、ロンドンのイースト・サイドや、二十世紀初頭、ニューヨークのあの高い摩天楼の陰で黒人街へと変貌していったハーレムとも、共通した点があることにも気付くのである。

釜ヶ崎の場合はこうした副次的な要因、ないしは立地条件といったものを背景として、第一次世界大戦後の大恐慌がそれを肥大させていったのである。すなわち、企業倒産、事業失敗、首切りといったことで廃棄された労働力が集積されて、スラム化が進展していったのである。今宮町の場合はこうした人口が、釜ヶ崎を中心として一都市に匹敵する七万五〇〇〇人以上に達したので、町行政ではついに手に負えなくなり、大正末期をもって大阪市に編入されたのである。

また、この大正末期に釜ヶ崎で発生した労働事件としては、飛田遊廓北門の北側にあったマツチ工場でストライキが発生している。しかし、飛田遊廓の用心棒をしていた山王町の組関係者が、これを阻止する側に立っていろいろと妨害したことが史実として残っている。いずれにしても、釜ヶ崎は大正末期をもってスラム街としての基礎が培われ、いままた昭和初期の金融恐慌によって、さらに残酷できびしい時代を迎えることになるのである。